

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会	
施 設 名	札幌市こどもの劇場（やまびこ座）	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業	
内 定 額 (総 額)	4,803	(千円)
	0	(千円)
	4,803	(千円)
	0	(千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	やまびこ座演劇講習会	令和5年7月25日～ 令和6年2月18日 (全22回)	<p>やまびこ座を拠点に、18歳以上の参加者を対象とした人材育成に取り組む事業を実施した。前年度から継続して参加している5人と今年度から新たに参加した4人の計9人が参加し、学生から社会人まで、経験値が異なる参加者が協力して一つの劇を作り上げ発表を迎えられた。参加者の満足度も高く、今後の活動につながる取組となった。</p> <p>【発表公演】令和6年2月18日 【演目】「怪盗紳士ルパン～城の魔法鏡～」 【講師】磯貝圭子(公益財団法人北海道演劇財団)、佐藤颯(東区市民劇団オニオン座)、狩野智晃(東区市民劇団オニオン座) 【スタッフ】照明:小助川俊幸、音響:橋本一生(ISSUE)、衣装:公益財団法人北海道演劇財団(借用)</p>	目標値	入場者数: 400 (発表会) 参加者数: 20
		札幌市こどもの劇場 やまびこ座		実績値	入場者数: 57 (発表会) 参加者数: のべ159
2	伝統芸能育成事業(人形浄瑠璃講習会、義太夫講習会、ざ・にんぎょうじょうりゅうクラス)	人形浄瑠璃講習会 令和5年6月20日～ 12月10日 義太夫講習会 令和5年5月17日～ 12月10日 ざ・にんぎょう じょうりゅう クラス 令和5年6月20日～ 12月9日	<p>歴史の浅い北海道では触れる機会の少ない日本の伝統芸能「人形浄瑠璃」を市民の手で取り組むことにより地域に定着させ、札幌の文化力向上と、子どもから大人まで豊かな文化体験や観劇の機会を創出することを目的に実施した。子どもから大人まで継続して参加できる講習会があることで、伝統芸能に興味を持って参加している中・高校生～若年層にとって身近なロールモデルが多くいるという状況が生まれた。また、年代や経験の差に関わらず同じ目標に向けて取り組む仲間に励まされ、より意欲的に取り組むという好循環も生まれていた。</p>	目標値	入場者260 (発表会) 参加者数 45

		札幌市こどもの劇場 やまびこ座	<p>【発表公演】①ざ・にんぎょうじょうるりユースクラス発表会 令和5年12月9日実施 ②人形浄瑠璃・義太夫講習会合同発表会 令和5年12月10日実施</p> <p>【演目】①「三人三番叟」「音冴春日月景時 団子売」「壺坂観音霊験記 山より谷底の段」 ②「寿式三番叟」「伊達娘恋緋鹿子 火の見櫓の段」「傾城恋飛脚 新口村の段」「素浄瑠璃『寿式三番叟』」</p> <p>【講師】西川 古柳（八王子車人形西川古柳座五代目家元）、竹本 信乃太夫（弥乃太夫会）、鶴澤 弥栄（弥乃太夫会）、さっぽろ人形浄瑠璃あしり座（講師補助）</p> <p>【スタッフ】大道具・小道具：福田舞台・大雪座、照明：鈴木静悟、音響：橋本一生（ISSUE）</p>	実績値	入場 135 (発表会) 参加者数 のべ 662
3	人形劇裾野拡大事業（児童会館人形劇クラブ、子どもフェスティバル、札幌人形劇祭）	令和5年5月～ 令和6年3月	<p>未来に渡って札幌の子ども文化が継続し、発展していくよう文化の担い手を育成していくために、劇場の専門性を活かし、札幌市内児童会館において「人形劇クラブ」の育成指導を行った。職員と共に札幌市内外で活動する人形劇団を講師として派遣して実践的な指導を行ったことで子どもたちの新たな可能性を引き出すことができ、人形劇の裾野を拡げることにつながった。また、人形劇クラブ員の活動を支援する児童会館職員も、人形劇制作や発表公演へのモチベーションが高く保たれ、一体感のある活動となっていた。人形劇クラブの周りには子どもたちや観覧した同世代の子どもたちにも刺激となり、子ども世代に広く人形劇への興味関心を高める効果があった。</p>	目標値	1,200
		札幌市内の児童会館 (6館) 札幌市こどもの劇場 やまびこ座	<p>【発表公演】①第52回札幌人形劇祭 令和5年11月18日・19日・23日実施 ②第52回札幌人形劇祭表彰式および受賞記念公演 令和6年1月8日実施 ③世界人形劇の日子どもフェスティバル札幌市児童会館 令和6年3月20日実施</p> <p>【講師】やまびこ座・こぐま座職員、札幌市内外で活動する人形劇団、伊井治彦（プーク人形劇場支配人）</p> <p>【スタッフ】舞台：大雪座、照明：小助川俊幸、音響：橋本一生（ISSUE）、舞台監督：福田恭一</p>	実績値	のべ 1,699

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>札幌市こどもの劇場やまびこ座と札幌市こども人形劇場こぐま座は、「子どものための公立専門劇場」として設立以来、「良質な子どもの文化芸術」を提供していくという使命を担ってきた。それに加えて、地域に親しまれ、誰もが創造的な活動ができる「地域の文化拠点」としての機能も備えている。このため、劇場の機能を最大限に生かし、「人形劇」「児童劇」「伝統芸能」を継承する人材を養成し、未来の札幌の文化芸術を担う人材の継続的な育成・支援を運営の根幹としている。</p> <p>令和5年度の助成はその「人材養成事業」に対して交付いただき、「人形劇」「児童劇」「伝統芸能」に係る人材養成事業を通じて、今後の劇場の公演事業の中心となる劇団や次世代の文化芸術を継承する若年層を養成することができた。また、人材養成事業に参加している市民の中から、新たな「児童劇」「伝統芸能」指導者として活躍できる人材を発掘し、自身の後進となる世代を対象とした講座の中で指導者補助として年間を通じて参加してもらうことで、次世代の指導者養成も進めることができた。</p> <p>両劇場で取り組んできた「人材養成事業」は、子どものうちから創作を含む様々な文化芸術体験の機会が提供できること、子どもから大人までどの世代であっても切れ目なく参加できて適切なサポートがあること、「実演芸術の担い手」であり「次世代の指導者」としても期待できる人材には様々な挑戦の機会を設けていることから、これからの文化芸術を担う人材の継続的な育成・支援につながるものであり、劇場として当該事業を行うことの妥当性があったと言える。</p> <p>今後も両劇場においては「地域の文化拠点」として継続して人材養成に取り組み、「持続可能な劇場づくり」を推進する。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>やまびこ座とこぐま座は「人材養成事業」によって多くの市民劇団を輩出し、公演事業や普及啓発事業を総合的に展開してきた。人形劇や児童劇を通して市民が参画できる場を創出して地域へ還元する仕組みは、文化的かつ社会的に大きな意義があると言える。</p> <p>令和5年度の助成を受けたことによって、札幌に住む様々な世代の市民が、多くの市民劇団や専門アーティストたちと協働で人形劇や児童劇の制作に取り組む機会を提供することができた。「やまびこ座演劇講習会」においては、講師として札幌を拠点に活動する札幌座の俳優である磯貝圭子氏を招へいできた。継続参加者からは実践的かつこれまでと異なるアプローチの指導を受けられたことから意欲的に児童劇に取り組むことができたという評価を得られた。「伝統芸能育成事業」では国の重要無形民俗文化財である八王子車人形の西川古柳座五代目家元、義太夫演奏家の竹本信乃太夫氏と鶴澤弥栄氏を東京から招へいすることができ、参加者は人形浄瑠璃と義太夫の本格的な稽古を受けることができた。「人形劇裾野拡大事業」では、札幌市内で活動する市民劇団と劇場職員を人形劇の指導者として札幌市内6館の児童会館人形劇クラブへ派遣することができた。また、人形劇のコンクールである札幌人形劇祭では札幌を拠点に全国で活動するプロの人形劇団主宰と東京の人形劇場支配人を審査員として招き、出演した人形劇団と合評会を行った。経験豊かな審査員からの客観的な意見は各劇団の今後の創作活動の質をより高めるものであり、多くの劇団の創作意欲の向上と活動の活性化につながっていた。</p> <p>総じて、多くの市民が市民劇団や専門家から学びを得て成長できる仕組みが人材養成事業にあることによって実演芸術の質的向上や地域への文化芸術の裾野拡大につながっており、経済波及効果が期待できる。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

地域の文化拠点として、各世代で「人形劇」「児童劇」「伝統芸能」で創造的な活動ができるという強みを生かして人材養成事業を展開した。事業を進める中で、次世代の文化芸術の担い手や指導者を発掘することを目指し、下記の目標を設定した。

【目標①】講師、スタッフに専門のアーティストを起用することで参加者のレベルアップを図り、後進の指導にあたることのできる人材を「やまびこ座演劇講習会」「人形浄瑠璃講習会」から各1人以上輩出する。

【実績①】「やまびこ座演劇講習会」：1人（達成率100%）、「人形浄瑠璃講習会」事業：4人（達成率400%）

【目標②】伝統文化に触れる機会の少ない北海道において、「人形浄瑠璃」「義太夫」にふれることのできる貴重な場として地域に根差した活動を目指す上で、前年度の参加者のうち85%以上が継続して参加することを目指す。

【実績②】「人形浄瑠璃講習会」：61.5% 「義太夫講習会」・「ざ・じょうるリユースクラス」：100%（達成率80.8%）

【目標③】札幌人形劇祭参加団体数23団体以上を目指し、人形劇の活性化につなげる。

【実績③】22団体（達成率95.6%）

令和5年度においては、次世代の指導者候補となる人材の発掘を進めることができた。

特に伝統芸能の担い手でもある若年層の「人形浄瑠璃講習会」参加者4名が、後進の世代となる中・高校生を対象とする「ざ・にんぎょうじょうるリユースクラス」や小学3年生以上を対象とする伝統芸能の舞台体験プログラム（助成対象外事業）において指導者補助として参加した。4名は、講座や事業に参加した子どもたちにアドバイスや励ましの声をかけて取組への意欲を高めるなど、参加した子どもたちの良き先輩として確かな信頼関係を築いていた。参加者の事後アンケートにおいても講師に対する評価は一様に高かったが、この結果は講師として招へいた専門家に対してだけでなく、参加者に寄り添い学びをサポートした4名に対する評価でもあったと言える。

「やまびこ座演劇講習会」においては、過年度の児童劇を学ぶ講習会に参加し、現在市民劇団の座員としても活動する若年層の1名が新たに指導者補助として参加することとなった。自らの経験を生かしつつ、専門アーティストである講師や参加者との話し合いながら劇を作り上げるサポートを行っていた。さらに後進の世代となる中・高校生を対象とした児童劇の講習会（助成対象外事業）においても講師となり、参加した中・高校生と話し合いを深めながら劇を創作していた。「やまびこ座演劇講習会」で指導者補助として学んだ手法を生かした指導を次世代の担い手相手に行うといった良い指導サイクルが生まれたことは、人材養成事業を行った成果だと言える。

次年度以降も、令和5年度に活躍した次世代の指導者をロールモデルとして、多くの子どもたちの中から「次世代の文化芸術の担い手」「指導者候補」となる人材の養成に取り組んでいく。そのためにも、両劇場の職員は次年度以降も継続して参加してもらえよう働きかけを行うと共に、事業の魅力を多くの市民に広く伝えて潜在層を掘り起こし、新たな参加希望者の獲得に努めていく。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

「やまびこ座演劇講習会」「伝統芸能育成事業」「人形劇裾野拡大事業」において、概ね当初の事業計画通り進めることができた。事業期間についても、事業参加者からの事後アンケートにおいて、無理なく参加できたという評価を得ることができた。また、満足度も総じて高かったことから、講師による指導を受けて自身の成長を感じられる機会や他の参加者と共に舞台を創り上げているという一体感が得られる丁度良い期間で設定することができたと言える。

全ての人材養成事業で成果発表公演を実施することができたことも、事業参加者の目標設定や意欲を高めることにつながり、結果として達成感や満足度を高めることができたと言える。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費については、3事業のうち「やまびこ座演劇講習会」のみ当初計画と乖離する結果となった。

収入において、「やまびこ座演劇講習会」「伝統芸能育成事業」の入場料収益が当初計画より伸び悩んだが、「人形劇裾野拡大事業」の入場料収益は当初計画よりも上回ることができた。2事業の入場料収益が伸び悩んだ要因として考えられるのは、公演チラシ作成の遅れやターゲット層に届く方法での周知が事業の直前となったことなど、事前の広報が不足したことがあげられる。多くの市民に講座での学びの成果を観ていただくことを目的として発表公演を行うことをふまえ、宣伝の開始時期やより宣伝効果を高められる戦略的な広報を実施すべきであった。「人形劇裾野拡大事業」で入場料収益が伸びた要因としては、札幌人形劇祭とその受賞記念公演での集客増が大きい。3日間に渡る連続公演で様々な人形劇を比較的安価で観られる機会であることが観客にとって気軽に劇場へ足を向けてみようという機運につながったことに加え、参加する人形劇団やそれを支援する指導者側でも集客に向けたPRが行われた結果であると考えられる。

費用においても、「やまびこ座演劇講習会」で公演する劇の内容に照らして作曲費・大道具費・小道具費・衣装費・印刷費が当初計画から変更になった結果、大幅に支出が減ることとなった。

劇場としてはどのような演目・内容になっても過不足なく実施できるよう必要な経費を計上している。演目やその内容が定まるのは事業開始後となるため、当初計画との差異ができることはやむを得ないところではあるが、今後は費用を精査して乖離を少なくしていくこととしたい。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

人材養成1「やまびこ座演劇講習会」は、令和5年度から事業名を変更したところ、事業参加者の半数が新規参加者となった。取り組む内容が事業名から分かりやすくなり、演劇には興味関心があったがこれまで取り組んでこなかった潜在層の市民の参加意欲を高める成果が生まれたと考えられる。

社会人から学生まで年代も経験も異なる参加者は、演技の基礎練習から脚本づくり、舞台の稽古という児童劇上演に至るまでの全工程を、講習会を通して体験することができた。また、劇を観た小学生や中・高校生が児童劇に興味をもち講座等への参加意欲を高めるなど、児童劇の裾野を広げる相乗効果も生んでいた。経験の有無の関わらず、全ての参加者が地元で開講している講習会で児童劇制作の経験を重ねられること、協力して創り上げた劇を地元の子どもたちに楽しんでもらえたという達成感を味わう経験ができるのは、地域の文化拠点として劇場が開講する意義であり、事業における大きな成果だと言える。

人材養成2「伝統芸能育成事業」では、伝統芸能である人形浄瑠璃を子どもから大人まで直に体験することにより、北海道ではなじみの少ない古典芸能の良さを知り、古典芸能に対する興味や理解を深めることができたと言える。令和5年度の取組においては、義太夫講習会に中・高校生が参加し、12月のざ・にんぎょうじょうりゆうリユースクラス発表会で義太夫を披露した。また、人形浄瑠璃講習会の受講生から次世代の指導者候補となる人材も出てきたことから、今後も事業を継続して次世代の文化芸術の担い手と指導者の育成を進めることは、伝統芸能を北海道に根付かせるためにも意義のあることだと言える。

人材養成3「人形劇裾野拡大事業」においては、児童会館人形劇クラブの活動が活発に行われた。コロナ禍で施設外での活動が制限されていたが、令和5年度は地元の町内会や施設近隣の幼稚園等との交流事業も再開したことで、練習の成果を地域で発表できる場が増えた。子どもたちの活動が多世代に認知される機会を提供できたことは事業の成果と言える。



令和6年2月やまびこ座演劇講習会
発表公演



ざ・にんぎょうじょうりゆうリユースクラス・義太夫講習会に参加する
中・高校生の稽古の様子



地元の幼稚園での人形劇公演
(児童会館人形劇クラブ)



人形劇公演に向けた演技指導
(児童会館人形劇クラブ)

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

人材養成2「伝統芸能育成事業」では、若年層の参加者が「人形浄瑠璃」「義太夫」に興味を持ち、意欲的に稽古に励んだ成果を12月の公演で発揮した。特に人形浄瑠璃講習会の参加者のうち4名は、講座を経て北海道で唯一の人形浄瑠璃一座であるさっぽろ人形浄瑠璃あしり座の座員となったことから、今後も人形浄瑠璃の魅力を札幌市内外で発信することが期待される。さらに、中・高校生対象のざ・にんぎょうじょうりユースクラスや小学3年生以上対象の舞台体験プログラムにおいて、後進の指導補助にあたるなどの経験を重ねたことで、今後は次世代の指導者候補としての活躍も期待できる。義太夫講習会は、新規参加者を含む18名と中・高校生6名が参加し、12月の発表公演では『素浄瑠璃』を披露した。観劇者は、人形の操演のない、語りと三味線によって紡ぎ出される物語と浄瑠璃の音楽的な面白さを楽しむことができた。

当該講座の発表会を観たことをきっかけに、人形浄瑠璃や義太夫に興味を持つ市民からの問い合わせや次年度の参加につながった例もある。地元で伝統芸能を観劇する機会が「毎年」「継続」して「ある」という環境が、伝統芸能になじみが薄いとされる北海道には必要なことであり、地域の文化芸術の発展のために当劇場が果たしている役割は大きいと言える。

人材養成3「人形劇裾野拡大事業」においては、小学生から大人まで、どの年代であっても「人形劇」の制作や質の向上に向けて作品のブラッシュアップ取り組める環境を整備したことで、今後も両劇場の公演事業を支えてくれる『市民劇団』の活動を支える基盤を強化することにつながったと言える。特に、児童会館に通う子どもたちの「人形劇クラブ」の活動については、劇場職員が、子どもたちの指導者側も含めて自主的かつ主体的な活動になるように指導を続けた。北海道の人形劇人にとって、11月に行う「札幌人形劇祭」は作品創造に向けた取組の一つのゴールとして機能を果たしており、多くの観客の前で公演を行うこと、審査員からの的確なアドバイスを受けることで「作品の質をいかに高めるか」思考を巡らす機会になっている。より良質な舞台作品を多くの市民が観劇できる機会の提供につながることから、当該事業を行うことで地域での実演芸術の振興に寄与したと言える。



講座受講生による発表会での人形操演
(人形浄瑠璃講習会)



講座受講生による発表会での語り・三味線
(義太夫講習会)



大人部門 最優秀賞
「おおきな木」
人形劇団ベジタブル



第52回札幌人形劇祭受賞作品

大人部門 優秀賞
「あほろくの川だいご」
人形劇団ぐらんぱ



こども部門 最優秀賞
「じごくのらーめんや」
人形劇団フレンチトースト

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

やまびこ座・こぐま座は、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会が指定管理者として管理運営を行っている。当財団は、青少年の健全育成や青少年女性の社会参加、地域社会創造のための主体的な活動支援等を人とのつながりを通して行うことで、地域社会の発展と向上を図り、豊かな生活の実現に寄与することを基本理念として創設された財団である。

両劇場は令和5年度から「豊かな子ども文化に彩られた未来創造のまち・さっぽろ」を方針に、子どものための専門劇場として『子ども文化』を育むことで生み出される人と人とのつながりにより、こころ豊かな未来を描くことができる「地域の文化拠点」となることを目指している。『劇場』は特別な場所ではなく、地域に開かれ、親しみやなじみのある場として子どもから大人まで多くの市民が集い、夢や笑顔を交わすことで生まれる創造的な取組を支援し、人や地域の活性化につなげることを目指して事業を進めてきた。

両劇場は開館以来「市民劇団の育成」を根幹に据えて事業を運営しており、コロナ禍で様々な事業が中止等を余儀なくされた中であっても、「人材育成事業」だけは止めることなく進め、地域人材の確保に努めてきた。市民の文化活動への入口を狭めることなく続けてきたこと、今後も継続して市民劇団を育成し支援していくことで、持続可能な劇場運営が可能になると考える。

職員の人材については、専門職である舞台技術者がいるほか、財団内の人材育成計画を策定して専門的な指導ができる人材や『子ども文化の醸成』をマネジメントできる人材の育成に、複数のセクションと連携して取り組んだ。舞台技術に関する研修、人形劇等の指導のための技術習得研修、人材育成ノウハウを養うための研修等を行ってきた。将来を見据え、今後も劇場の事業を担うことのできる人材を育成することを進めていく。

財務面においては、全収益と比較して5割程度が人件費となり、その他が施設の維持管理費用・事業運営費用に充てられる。令和5年度は、8月に札幌市こどもの劇場やまびこ座が開館35周年を迎え、7～8月には開館記念公演事業を実施したこと、事業に係る旅費交通費や消耗品費が高騰したことの影響もあって、令和4年度よりもマイナス計上額が若干高くなっている。令和6年度以降、現在の指定管理期間が終了する令和9年度までの間で、公演における上演収入や他団体への協力事業による事業収入などを段階的に増やすことで5年間のスパンで収支相償を図っていく。

項目	2022年度(千円)	2023年度(千円)	備考
指定管理費	72,176	71,465	
利用料金収益	3,554	2,162	
その他収益	34,768	13,816	入場料、指導料、助成金収入等
収益計(A)	110,498	87,443	
人件費	41,125	44,435	
その他費用	66,616	40,930	
法人事業費	2,928	2,373	
費用計(B)	110,669	87,738	
増減額(A)-(B)	▲171	▲295	